

埋蔵文化財

当地区は埋蔵文化財包蔵地であり、古くは8万年前の地層からナウマンゾウの足跡化石が発見されています。また約3万年前の旧石器時代の石器や、縄文時代の土器・石器・木器が出土しており、この地域に古くから人々が居住していたことがしのべられます。弥生時代では古い段階の水田跡が、古墳時代では200基を超える古墳群とそれに伴う集落跡が発見されており、それ以後の時代でも当地区の発掘調査は歴史的・考古学的に重要な成果をおさめています。



長原一ヶ塚古墳(5世紀初頭)

この古墳は直径約50mの造出しをもつ円墳で、長原で2番目に大きなものです。また、長原で最も古い古墳の一つで、この古墳が築造されて以後、小型方墳が多数造られます。



古墳時代の掘立柱建物跡(6世紀後半)

古墳時代の家もしくは倉庫の跡です。地面に無数に空いているのは柱穴で、この写真のように密集しているのは、何度も建物を建て直したことを表わしています。



古墳時代の土器